

# Responsible Care NEWS

2021 秋冬季号



レスポンシブル・ケア®



# from Members

「より良い習慣づくりで、人々の毎  
企業でありたいと思っています。」

## ライオン株式会社

### 生活者の視点に基づいたサステナブルな社会を

——ライオンの概要、特徴から聞かせてください。

**小林** 当社は雑貨から医薬品、食品まで非常に幅広い分野の一般消費財を取り扱い、国内外で事業を展開しています。現在はハミガキ・ハブラシ等のオーラルケア、ハンドソープ・ボディソープ等のビューティケア、洗濯用洗剤・柔軟仕上げ剤等のファブリックケア、台所用・住居用洗剤等からなるリビングケア、医薬品、その他といった事業分野となっています。2020年度の連結売上高は3,500億円強、グループ全体の従業員は約7,500名です。製品が多岐に亘るため非常に多くの化学物質を扱い、医薬品・医薬部外品の関係法令も多いので、信頼性や品質保証について、かなりの人員・コストを割いていることが特徴の一つです。また、生活者が水と共に使用する製品が多いことから、水資源の保全是当社にとって重要なテーマだと考えています。

——コロナ禍が経営に与えた影響はありましたか。

**小林** 手洗い・消毒というマーケットが拡大したことにより、この分野の売上は大きく伸びました。一部では供給が追い付かず、生活者の皆様にはご迷惑をお掛けしました。マイナス面は海外からの観光客によるインバウンド需要がほぼゼロとなったことです。それでも、トータルではプラスの方が大きいですね。一方、海外の生産拠点における状況は様々ですが、ロックダウンの影響もあり、総じてネガティブ・インパクトとなっています。

——統合レポート等を見ても、サステナビリティを重視した事業運営を行っていることが窺えますが…。

**小林** サステナビリティという広い概念の中に事業活動は勿論、環境・安全・健康といったRC活動や人権・教育等、いろいろな要素が包含されていると考えています。当社の製品は生活者がご家庭で使用されるものが殆どなので、ご使用時の安全・健康には特に配慮することが必要です。生活者の視点に基づいたサステナブルな社会の実現という思考は新入社員教育から徹底していますし、研究開発においても常に意識して取り組んでいます。

### 地球温暖化を防止するために何をすべきか

——RC、CSR、SDGs等、様々な概念が導入されましたが、それらの活動が成果に繋がった部分はありますか。

**小林** 数値的なものよりも、意識の変化が大きいですね。安全については昔から「安全なくして生産なし」という考え方でしたが、特に環境に関するスタンスが大きく変わったと感じています。以前は環境に良いことの中で、できることをやろうという姿勢でしたが、今は地球温暖化を防止するために何をすべきか、プラスアルファではなく必須の取り組みと捉えています。

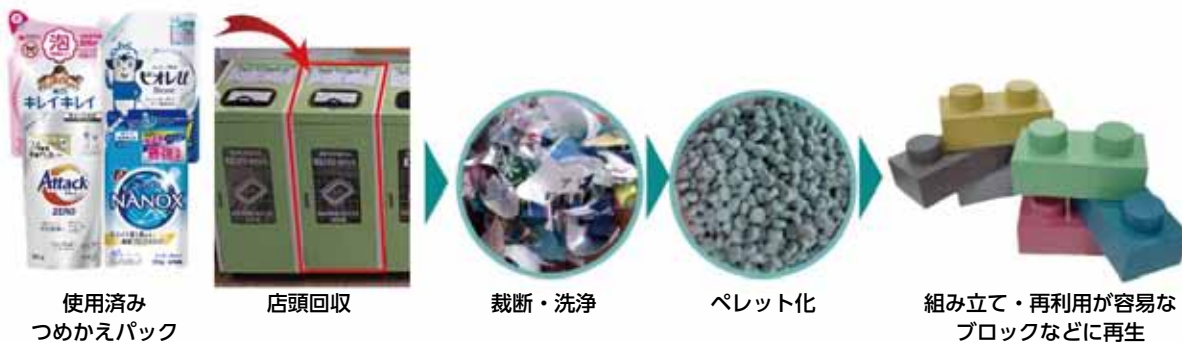
——具体的な環境保全対策はどのようなものですか。

**小林** CO<sub>2</sub>削減に関しては製造・物流等において自社内のできる対応と、生活者が製品を使用する中で削減に繋げていく取り組みがあります。社内においては製品マネジメントシステムに組み込まれているエコ基準を厳格に適用し、開発・原料調達・製造の各段階で環境負荷の指標をクリアすることが求められます。原料については1990年代から植物由来のものを用いた洗剤等を取り扱っており、カーボンニュートラルを意識しています。工場の環境監査はサステナビリティ推進部が構築した枠組・ルールに基づいて運営しています。物流に関しては競合他社との共同配送を行い、トラックの走行距離を減らして排出ガスを削減する活動を実施しています。一方、生活者の皆様に渡ってからの対策には、製品のコンパクト化や詰替用パウチの回収、リサイクル等があります。洗剤等のパウチは日本がトップランナーで、当社の多くのカテゴリーで売上の8割を超えています。現在、花王、販売店と協働し、パウチのリサイクルに取り組んでいます。その他、ハブラシ等の回収、リサイクルや廃棄物の輸送などについて専門業者や自治体と連携しながら進めています。

——水資源の保全も重要なテーマというお話でしたが…。

**小林** まず、製造工程における水使用量を削減する努力をしています。2017年には千葉工場が水使用量と排水量削減、水質保全の成果により日化協RC優秀賞を受賞しました。また生活者には、

### 詰替容器リサイクルプロセス



# 日に貢献する」



取締役 上席執行役員 **小林 健二郎さん**

節水モードで使用できる洗濯用洗剤等を提供しています。様々な分野で環境負荷を低減するために、当社の事業・テクノロジーで貢献していきたいと考えています。

## ビッグデータの活用によるビジネスモデルの変革

——労働安全衛生についても聞かせてください。

**小林** 安全衛生防災会議で国内外の状況をモニタリングしていますが、度数率・強度率は業界の平均をかなり下回る良好な成績をキープしています。安全最優先を忘れることなく、監査等もきめ細かく行いながら継続していきたいですね。

——コロナ禍による活動への影響はありましたか。

**小林** 当社の工場では医薬品・医薬部外品を扱っているので元々、衛生管理には厳しく対処してきました。感染防止を徹底するためリモートによる会議・打合せや食堂の利用方法の工夫等、様々な対策を講じています。

——対面での教育・研修が実施できず、苦慮している企業もあるようですが…。

**小林** コロナ以前の2019年にライオン・キャリアビレッジというe-ラーニングによる社内研修システムを確立しました。400程度のカリキュラムがあり、パソコンからオンデマンドで受講できる仕組みです。各自の都合に合わせて学習できることから、コロナ禍で視聴率が伸びています。現在は日本語だけではなく、共通の社員教育用ツールとして外国語版の準備も進めているところです。

——自然災害への対策はいかがですか。

**小林** 従業員の安否について、災害発生後、数時間で全て確認できる仕組みを導入しました。また、自然災害は今後、更に増えるだろうという想定の下に、災害後のリカバリーについても検討しています。生産部門、システム部門におけるBCPの議論が中心で、特に情報、物流システムがダウンした時の対応を重視しています。

——先進技術の導入はどのような分野に…？

**小林** 数年前からDXに関する議論は始めており、目的ではなく手段として、どの分野で活用できるか検討してきました。データを解析・評価しビジネスモデルの変革に繋げていくという結論を得て、設置されたDX推進部の要員の半数はデータアナリストで構成されています。生産・営業・物流等のデータから仮説を検証し改善を積み重ねていくことにより、新たなビジネスチャンスを模索する取り組みです。先進技術によって利便性を向上するといった話ではなく、ビッグデータの活用が中心ですね。

——環境・安全活動にも利用できる点はありますか。

**小林** 極めて有効だと思います。例えば環境負荷の高い工場と低い工場があれば、その理由をデータから分析しベストプラクティスとして生かすことができる訳ですから…。

## パートナーシップを具体化するプラットフォームを

——現在、特に力を入れている活動は何ですか。

**小林** 抽象的になりますが、一番大きなチャレンジは環境課題の

解決に繋がるイノベーションの実現だと考えています。これまでの対策の延長線上ではカーボンニュートラルは達成できない訳ですから、全く別の視点からの取り組みが必要であると認識しています。最近のトピックスとしては、コロナ禍の影響もありメンタルヘルスの観点から関係性向上プロジェクトを立ち上げました。在宅勤務が増えたことから上司と部下の関係を見直し、生産性向上やイノベーションの発露に繋げていこうという取り組みです。フィジカルの面ではメタボの従業員の増加が健康診断の結果から明らかになったので、健康サポートチームが運動不足解消に向けた様々な対策を打出しています。

——今後の目標を聞かせてください。

**小林** 中長期経営戦略として「Vision 2030」を策定し、次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーとなることを目指しています。具体的には人々が毎日の生活の中でより良い習慣を身に付け、健康になっていただくサポートをしていきたいと考えています。例えば歯みがきの回数は1日2回が当たり前となり、今では朝晩に加え昼食後にみがく人も増えています。それに伴い、むし歯の患者が減少したという事実があります。このような日常のさり気ない変化から、人々の健康に寄与していくことが当社の求める理想です。コロナ禍で手洗いの回数は飛躍的に増えましたが、習慣として定着すれば他の感染症や食中毒などの予防にも繋がる筈です。人をいかに習慣付けるかというテーマで科学的な検証も行っており、パーパスとして掲げた「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する」企業でありたいと思っています。

——日化協への要望があれば…。

**小林** RCは化学業界独自の活動であり世の中に普及しているとは言い難いかもしれませんが、内容は素晴らしいと感じています。一企業の自画自賛ではなく業界全体の成果として、社会にPRしていただきたいと思います。またSDGsで最も重要なのはパートナーシップだと思っているので、国、自治体、産業界と一緒に行動できるプラットフォームの構築にも日化協の力を発揮していただきたいと考えています。



全国小学生歯みがき大会

### 事業所の概要

DIC(株)四日市工場のある三重県北部の四日市市は、四の付く日に市が開かれていたことから市名の由来となり、江戸時代から東海道の宿場町として栄え、万古焼などの地場産業が盛んで、戦後は、コンビナートが立ち並び、多彩な企業が集積する三重県下最大の産業都市です。四日市コンビナートは、数ある日本の工場地帯の中でも幻想的な工場夜景が広がる聖地として、「工場萌え」の夜景ファンから注目を集めるコンビナートです。

DIC(株)四日市工場は、その四日市コンビナートの一角で1974年にポリスチレン樹脂の生産工場として、年産3万トン規模で操業を開始し、以降スクラップアンドビルドを経て、現在では、年産20万トン規模の生産工場として、無事故・無災害・無公害で操業を継続しています。



コンビナート内の四日市工場

### レスポンスブル・ケア活動

労働安全衛生への取り組みとして、安全最優先を原則にヒヤリハット・潜在災害の発掘、事故事例の水平展開、安全体感教育、リスクアセスメントなど、さらには、安全衛生パト



防災訓練

ロールを中心とした安全活動を積極的に推進し、労働災害撲滅に努めています。

保安防災への取り組みとして、予防規程などを定め、コンビナート地域における災害の発生及び拡大防止を図り、また、南海トラフ大地震の津波対策として、2018年に3階建ての事務棟を建設し、災害対策本部として、津波避難場所の確保や非常食・飲料水の備蓄など、緊急時に備えています。

環境保全への取り組みとして、産業廃棄物については、発生源対策や分別の徹底など、3Rに積極的に取り組み、廃プラスチック類は、有価物への転換、廃油は、プラントへの熱エネルギー化を進め、廃棄物削減に努めています。PRTRについては、発生源対策として、プロセスの見直しを行い、大気水質への排出量削減に努めています。また、環境基準は、四日市市と公害防止協定を締結し、法令遵守はもとより、厳しい自主管理基準を定め、環境保全に努めています。

省エネルギーへの取り組みとして、省エネ機器の採用、熱回収、夜間電力の活用による効率的なプラントの稼働、太陽光発電の導入、照明のLED化など、積極的に電力使用量の削減に努め、CO<sub>2</sub>排出量の削減による地球環境保全にも力を入れています。

ISO14001の認証登録については、1998年に環境マネジメントシステムISO14001を取得し、当社の「安全・環境・健康に関する方針」に基づき、プロセス設計から製品の廃棄に至る全ての段階において、環境管理システムの維持改善を推進しています。

### 地域とのコミュニケーション

四日市コンビナート企業との連携として、防災面では、四日市コンビナート地域防災協議会に加盟し、災害防止や労働安全など、環境面では、四日市地域環境対策協議会に加盟し、環境保全や環境問題など、積極的に情報交換を図っています。

また、行政や地域住民の皆様とのコミュニケーションとして、日化協RC委員会主催によるレスポンスブル・ケア四日市地区地域対話への参加や毎年夏に恒例の「大四日市まつり」や「四日市花火大会」(コロナで中止)に協賛し、コミュニケーションを図っています。



大四日市まつり

### 事業所の特徴

当社、千葉工場は1962年に東日本の生産拠点として千葉県東金市に建設され、東洋一の塗料工場として操業を開始しました。その後、2期工事で塗料工場拡大、3期工事で樹脂工場、4期工事で粉体塗料工場を増築し、1982年に現在の建築物構成となりました。2019年には第一工場をリニューアルし、環境配慮型塗料である粉体塗料の生産量を拡大しました。第一工場には、側面に新たに開発したノンクロムプライマーを採用した外壁材を用いています。現在では、日本ペイントグループの国内最大の生産拠点として、溶剤・水性塗料、粉体塗料、電着塗料を生産しています。2022年には創業60周年を迎える、昭和の面影と令和の新しさの両方を持ち合わせた工場です。



PD (粉体塗料) 新工場

### レスポンスブル・ケア活動の概要

1999年に日本ペイントグループ全社一括でISO 14001の認証を取得しました。「ステークホルダーとの相互信頼に基づいた関係づくりに寄与した活動をめざす」を方針とし、安全操業・社会的責任・企業活動を通じ環境保護を目的とした活動を行っています。温暖化防止の活動として省エネ型設備への更新、製造方法・物流の効率化、産業廃棄物の発生量の抑制などを進めています。また、温暖化の緩和対策として当社開発の遮熱塗料を倉庫屋根に採用したところ、倉庫内の温度が約5℃下がることが確認されています。

千葉工場では「環境委員会」を開催し、各種実績の共有化や意見交換、省エネルギー活動、リスクアセスメントの見直し、災害発生時の訓練などによるリスク低減に取り組んでいます。従業員のDIYによる現場改善を実施し、働きやすい職場づくりによるコミュニケーションの向上と効率化、相互注意しあえる職場への変革など、風土改革にも積極的に取り組んでいます。今後も従業員一人ひとりがレスポンスブル・ケア活動への取り組みを継続して推進していきます。

### 地域とのコミュニケーション

千葉工場では東金労働基準協会の会員として、近隣企業との交流および安全活動を実施しています。例えば、年始には成田山新勝寺への安全祈願を合同で行うと共に、各種講習を斡旋、開催しています。

日本ペイントグループの取り組みとして、Tリーグ所属の卓球チーム日本ペイントマレッツを通じて、子供用卓球台の保育園、幼稚園への寄贈を2018年から行っており、2021年は18台、4年間で合計123台を寄贈しています。

また、塗料メーカーの強みを生かし、ボランティア活動として地域の公園へ社員が出向き、遊具を塗装する活動を2007年から継続しています。色が薄くなった遊具や錆が発生している遊具を塗装することにより鮮やかな公園として復活し、近隣住民ならびに東金市役所から喜びの言葉をいただいています。昨年よりコロナ禍で中断していますが、収束後は活動を再開し、公園に新たな命を吹き込みたいと考えています。今後、第一工場のコミュニケーションスペース(ESGエリア)やリニューアルした食堂での催し、工場見学を通じて、近隣住民とのコミュニケーションをより一層図る取り組みを計画しています。



塗装ボランティア



ESGエリア



食堂



## 1. AMEICC 化学産業WGによるアセアン支援活動

### 1) 日・アセアン化学産業人材高度化支援

AMEICC (WG-CI)の3年計画の中で2021年度も継続して労働安全、運転安全の改善のためASEAN各国に対する製造工場のラインマネージャー対象の2日間のプログラムを実施するという経済産業省の提案が受け入れられ、昨年に続きAOTSを通じて日化協への協力要請があり、研修を実施することになりました。今年もCOVID-19の影響で、現地開催は難しいことから、オンライン形式で研修を実施することになりました。開催国は、カンボジア、ベトナム、タイ、フィリピンの4カ国の予定で、前年度同様に各国の状況に応じた研修プログラムを作成し、現地語の教材を準備しました。参加者に理解を深めてもらうために、講義は日本語の説明を逐次通訳をするという形式で実施しました。カンボジアは12月1日～2日に研修を実施し、今後、ベトナムは2022年1月19日～20日、タイは1月25日～26日、フィリピンは2月15日～16日に実施する予定で準備を進めています。

### 2) アセアン各国のオンライン形式の研修

#### ①カンボジア(12月1日～2日)

参加者は43名で、管理者の参加が多く、日本ではど

の手法が一般的に使われているのか、実際にどのくらいの頻度で実施しているのか等、具体的な質問が多くありました。講義は、これから発展していくカンボジアに対して、KY(危険予知)、指差呼称、保護具、現場パトロールなどの指導者となる方々に利用できる教材を中心に、8講座を日化協の講師3名で実施しました。また、講義の中で、事故事例の原因究明と対策を何人かに発表してもらいましたが、直接原因に関する回答は少なく、ほとんどの解答が管理者目線の回答で、昨年の実施国と比べると明らかに管理者の参加が多かったと感じました。



## 2. 海外RC研修活動の状況

会員の海外事業所におけるRCの取り組みを支援する現地でのレスポンシブル・ケア講演会およびワークショップは、日本人商工会議所との共催で、タイおよびインドネシアで毎年開催していましたが、2020年度はCOVID-19の影響で中止となりました。2021年度もCOVID-19の影響は継続しており、現地での開催は難しいことから、オンライン形式での開催を推進しています。タイでは、8月にレスポンシブル・ケア講演会および現地スタッフ向け講義をオンライン形式で実施し、視聴者全員がパソコンで視聴しました。

インドネシアでのレスポンシブル・ケア講演会およびワークショップは、2019年度、2020年度ともに

COVID-19の影響で中止となってしまいましたが、今年度は2022年2～3月に開催を予定しています。タイで実施したオンライン形式のレスポンシブル・ケア講演会および現地スタッフ向け講義の状況を、ジャカルタジャパンクラブに紹介し、タイと同様な形式で進める方向で開催方法、実施時期等について検討しています。

マレーシアは、10～11月に開催を予定していましたが、COVID-19の影響が継続していたため、マレーシア側は2022年2月以降に延期し、現地開催を希望しています。今後、COVID-19の影響を考慮しながら開催時期と開催方法を見極めていく予定です。

## 日化協LRI賞受賞者を表彰

化学物質がヒトの健康や環境に与える影響に関する研究を長期的に支援する日化協LRI (Long-range Research Initiative) では、研究費助成に加えて、優れた若手研究者の育成、新たな研究分野開拓および研究者との関係構築等を目的に、日化協LRI賞を設立しています。日本毒性学会および日本動物実験代替法学会に本賞を設けており、2021年度はそれぞれ第7回および第6回の表彰を行いました。

### 【日本毒性学会第7回日化協LRI賞】

日本毒性学会第7回日化協LRI賞の受賞者は以下の通りです。



にしむら やすみつ  
西村 泰光 准教授

**所属機関** 川崎医科大学 衛生学

**研究テーマ** 悪性中皮腫発症に関わる石綿曝露が及ぼす免疫抑制影響の解析

表彰式は2021年7月7日から9日に開催された第48回日本毒性学会学術年會において執り行われました。また、同年8月20日に開催した2021年日化協LRI研究報告会において受賞記念講演を行いました。

石綿(アスベスト)は、欧米諸国や日本においては全面的に使用が禁止されていますが、アジア諸国やロシアにおいて未だ大量に使用されています。また、悪性中皮腫が曝露開始後約40年を経て発症することから、石綿曝露による健康障害については日本をはじめとする各国で大きな関心事であり続けています。受賞者は、リンパ球各細胞集団への石綿曝露影響および悪性中皮腫患者の末梢血リンパ球機能の解析に一貫して取り組み、これらの特徴的な機能変化を明らかにしました。これによって、従来、石綿の発がん性のみから説明されてきた悪性中皮腫発症機序に“石綿曝露の免疫抑制作用”の作用点が新たに書き加えられ、石綿曝露者における悪性中皮腫発症の理解に大きな影響を与えました。関連する学会からの受賞も多く、これまでの研究の功績が高く評価されています。

### 【日本動物実験代替法学会第6回日化協LRI賞】

日本動物実験代替法学会第6回日化協LRI賞の受賞者は以下の通りです。



あほ たかゆき  
安保 孝幸 氏

**所属機関** 花王株式会社 安全性科学研究所

**研究テーマ** *in vitro*眼刺激性試験Short Time Exposure法における高揮発性物質の適用範囲拡大と予測性検証

表彰式は2021年11月11日から13日に開催された日本動物実験代替法学会第34回大会において執り行われました。

動物試験の代替法開発と実用化は、化学物質のより質の高い安全管理の実現、動物福祉などの観点から世界的な課題となっています。受賞者は動物を用いない*in vitro*眼刺激性試験であるShort Time Exposure (STE)法に関する研究を精力的に進め、その成果はOECDテストガイドラインへの採択に貢献するものとなりました。その後も研究を継続し、高揮発性物質への適用範囲の拡大を達成しました。さらに、医薬部外品・化粧品の安全性評価におけるSTE法のガイダンス策定にも関与し、現在は欧州の化粧品工業会と共にSTE法と他の*in vitro*試験法を組み合わせた評価体系のOECDテストガイドライン化に向けて国際的に活躍しています。試験法開発だけでなく、その実用化への貢献も大きく、今後もますますの活躍が期待されます。

日化協では、今後も両賞を通じて、若手研究者の育成、ならびに社会への貢献を進めてまいります。

# リスクコミュニケーション研修

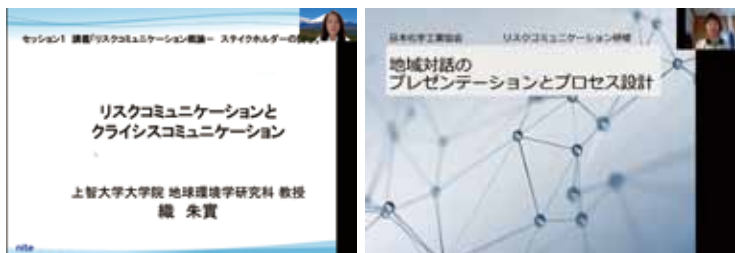
レスポンシブル・ケア(RC)活動では、様々なステイクホルダーとのコミュニケーション／対話を重要な活動と位置づけ、なかでも工場近隣の住民との対話を行うことが最も重要と考えています。そのため、RC委員会会員の工場が比較的多く立地する化学コンビナートを中心とする国内15地区や、その他多数の個別地区、企業等において定期的に対話集会を開催しています。

各対話集会では、工場近隣の住民等が化学企業に対して抱えている不安や疑問あるいは期待は何か、また、化学企業が環境・健康・安全を確保するためにどのような活動を行っているか等をお互いに理解し合うことが必要です。

対話集会において、化学企業の取り組み内容をより良く理解していただく、住民からの質問や意見等に対して適切に対応する、さらには住民の関心事をより多く引き出すためにはどうしたら良いかを実践的に学ぶために、日化協RC委員会では毎年1回、リスクコミュニケーション研修を開催しています。

2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大影響のため、一昨年まで行っていた1泊2日の集合研修に代えて、9月10日に1日プログラムで参加者13名によるオンライン研修を開催しました。研修の概要は以下のとおりです。

## 1. オンデマンドによる事前学習



昨年同様、受講必須の事前学習として、上智大学大学院・地球環境学研究所の織朱實教授より「リスクコミュニケーションとクライシスコミュニケーション」(約45分)、および廃棄物・3R研究財団の中山育美上席研究員より「地域対話のプレゼンテーションとプロセス設計」(約10分)について、オンデマンド方式によるオンライン講義を行いました。

## 2. オンラインによる当日研修

- ◇セッション1：講義「リスクコミュニケーション概論～ステイクホルダーの関心」
- ◇セッション2：講義「地域対話の設計とプレゼンテーションのポイント」

セッション1および2では、事前学習の各講師より、事前学習で出された課題についての議論や回答、重要ポイントの補足説明等があり、講義内容の理解をさらに深めることができました。

◇セッション3：ワークショップ「ステイクホルダーの関心を知る」

◇セッション4：ワークショップ「メッセージの作成」

◇セッション5：「対話(プレゼンテーション&質疑応答)スキルトレーニング」

セッション3～5の実習では、参加者を3グループに分け、グループ討論がスムーズに進行できるよう、各グループにファシリテーターが加わり、環境保全または保安防災に関わるテーマでグループ討論、メッセージ作成、模擬対話演習を行いました。

セッション3では、グループメンバー各自が周辺地域住民の立場(例：自治会長、妊婦、漁業従事者、工場OB、小学校PTA会長等)になりきった上で、工場に対して聞きたいこと、疑問に思っていること等を考え出し、オンライン上で共有しました。セッション4では、セッション3で考え出した住民の疑問や意見等に適切な表現で答えられる内容とするためのメッセージ(プレゼンテーション資料)作成について議論し、実際に用意されたメッセージサンプルの不十分な箇所を手直しし、必要な改善をして発表資料に仕上げました。尚、各セッションごとに各グループから討論結果の報告を行い、参加者全員で内容を共有しました。また、各グループの報告に対し、織教授ら講師からコメントをいただくことでコミュニケーション能力の向上を図ることができました。セッション5では、今回初めての試みで、従来集合研修でスキルアップのために大変有用な手法として行っていた「模擬対話」をオンラインで実施しました。セッション4で作成したメッセージを工場側役グループ





の参加者が発表し、それ以外の参加者が地域住民等の対話出席者役として質疑を投げかけ、工場側役がそれに答える形で演習を行いました。質疑に対する受け答えについて、織教授ら講師から評価と改善点、助言、注意点等を受けることで、参加者はスキルを習得、向上することができました。

### 3. 参加者の感想コメントと研修後アンケート結果

研修後に行ったアンケートで参加者からは、オンデマンド事前学習があったおかげでスムーズに研修を行うことができた、リスクコミュニケーションは、スキルを持って臨むものである事が理解できた、他社の同じ職務につく参加者から刺激を受けた等の感想をいただきました。オンライン研修については、リアルとあまり変わらず実施できたのではないかと、移動時間が不要なので参加しやすい、効率的、等の評価をいただきましたが、参加者同士の意見交換、交流が充分できなかったとの指摘もあり、オンライン研修ではより一層の工夫が必要であることを認識しました。

#### 【参加者の感想実例】

##### オンデマンド事前学習：

- ・テキストより情報も多く集中しやすい、また視聴時間も調整できるため映像での事前学習は非常にやりやすかった。
- ・研修を受講するうえでの事前学習、着眼点の整理(自職場、事業所に置き換えて考える)という点で有効だった。

##### セッション3：

- ・自分の認識の中で欠けていたステイクホルダーの関

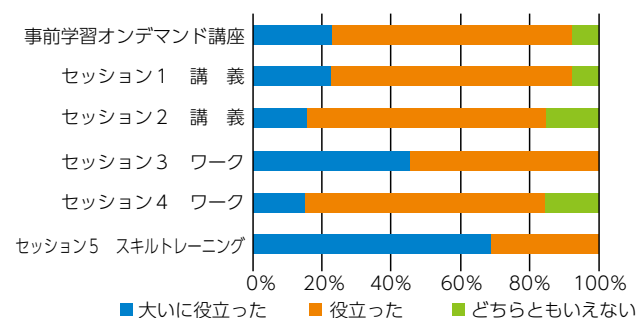
心に気づくことができた。説明したいことでなく、関心事を考えること、関心事を知る手法として対象とする人の立場を想定し整理することが参考となった。

- ・参加者がいろいろな立場に立って考えただけでも、様々な意見が出たので、実際にその立場の人はもっと様々な意見をお持ちなのだろうと感じることができ良かった。

##### セッション5：

- ・緊張感がある中で工場側に対する地域住民等になりきった質問に答弁することで、難しさを重要性を認識することができ、非常に役立つ内容であった、今後の地域対話でこの経験を役立てたい。
- ・質疑のコツについて、いろいろなノウハウを学べた。プレゼンテーションにおいては視線、表情も重要と思いい、これらについてもレクチャーいただいたかったが、Webでは難しいと思った。
- ・非科学的な質問や感情論など、対処が難しい質疑への対応などを知ることができた。

#### 研修後アンケート結果



## 化学の日 パネルディスカッション

化学の日である10月23日(土)、日化協は、化学工学会、高分子学会、触媒学会、日本化学会および有機合成化学協会と共同で、『2050年カーボンニュートラルの実現』～地球規模の課題に取り組む化学系学協会～と題して、化学の日パネルディスカッションをオンライン開催しました。産学官、マスコミ、一般の方を含め、1,000名超の参加があり、盛況に開催されました。

パネリストの紹介、日本化学会・小林会長から本イベントの趣旨説明、モデレータの川合前日本化学会会長からのカーボンニュートラルの現状認識の説明に続いて、登壇したパネリストから各学協会のカーボンニュートラルに対する取り組みを紹介した後、必要となる技術や地域・社会との連携についてディスカッションが行われました。日化協・森川会長は、「化学産業は、人々の健康で豊かな生活に必要なものを供給する位置づけにある。原料転換・エネルギー転換を含む『化学産業自らの排出削減』、社会全体でのカーボンニュートラルに貢献する製品を供給していく『製品・サービスを通じた排出削減貢献』の2つが、カーボンニュートラル達成に向けての化学産業の役割」と、力強いメッセージを発信されました。

このパネルディスカッションのアーカイブ動画は、日化協の会員サイトからご覧いただけますので、ぜひご視聴ください。

※会員サイトの閲覧には会員ログインが必要です。



2021年度 第1回

## 会員交流会

RC委員会では、会員間で情報交換する場として会員交流会を実施しています。本交流会は、レスポンシブル・ケア(RC)賞を受賞した優秀事例の共有とともに、会員同士の意見交換を通じて、RC活動のさらなる向上をめざすものです。2021年度第1回会員交流会は11月1日(月)に開催しました。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としましたが、本年度は感染症対策として初めてオンライン形式で開催し、30名の方に参加いただきました。

まず、第15回RC賞受賞講演として、次の受賞案件について発表していただきました。

RC 審査員特別賞：化学塾 ～化学知識の獲得と安全の感性向上～	三菱ガス化学株式会社
RC 優 秀 賞：保安事故・ヒヤリハット低減への取り組み	三菱ケミカル株式会社
RC 優 秀 賞：住化アグロ製造の環境負荷低減への取組み	住化アグロ製造株式会社

続く分科会では、参加者が3つのテーマ(プロセストラブル削減に向けた人材育成、保安事故低減への取り組み、環境負荷低減への取り組み)に分かれてグループ討議を行い、RC賞受賞内容についての意見交換や自社の

取り組みの紹介等を行いました。

討議後は、各グループから討議結果についての報告を行いました。

### (1) プロセストラブル削減に向けた人材育成【参加者7名】

座 長：森本 和宏(三井・ダウ ポリケミカル株式会社)

副座長：谷口 信雄(日本化薬株式会社)

事前に実施したアンケート結果を基に、プロセストラブル削減に向けた人材育成について各社にてどのように行われているか、また各社で悩んでいることや困っていることについて意見交換を行いました。

各社で行われている人材教育については、OJTや社内研修の充実、社外を活用した教育など、各社工夫を凝らして取り組んでいることがわかりました。またプロセス・設備を熟知したエンジニアの育成や、世代交代、業務多忙による技術伝承の難しさなどの悩みについても参加者で意見交換し、さらには各社で上手くいっている事例を紹介するなど、初めてのWeb会議による分科会ではありますが、参加者で情報共有することができた大変有意義な分科会となりました。



### (2) 保安事故低減への取り組み【参加者8名】

座 長：濱村 隼矢(花王株式会社)

副座長：勝又 信宏(株式会社ダイセル)

事前に実施したアンケート結果を基に、過去トラブルの再発防止策や、保安事故未然防止策、設備不具合/異常兆候の特定・発見策と仕組み、早期発見の仕組みとそのスキル向上への取り組みに関して、各社の活動や課題について意見交換しました。保安事故低減への取り組みは多岐にわたるものの、各社いろいろな仕組みや方策のもと取り組まれていました。参加メンバーの共通したキーワードとして「設備の老朽化対策」「トラブルの水平展開方法」「変更管理とリスクアセスメント」「早期発見のスキル伝承」といった点が挙げられました。今回、リモートでの分科会ではありましたが、他社の苦労話や各社の事例を知ることができ、有意義な分科会となりました。



### (3) 環境負荷低減への取り組み-A【参加者7名】

座長：藺田 真二(三菱ケミカル物流株式会社)

副座長：鈴木 吉昭(三菱ガス化学株式会社)

初めて会う方とWebで議論するという試みでしたが、事前アンケート結果に従って進めることで、参加者が関心を持っていることについて議論することができたと思います。

2030年温室効果ガス削減目標、2050年カーボンニュートラルへの取り組みは多くの会社の目標に取り込まれており、関心が高いことが分かりました。すでに目標は決まっており、今は、活動をより具体化していく時期にあると思われます。そのために担当者として何をすればよいのか、苦勞したり、悩んでいたりにすることについて、いろいろな立場から意見が出され、社内では聞くことのできない話も多かったと思います。

COP26開催中に環境負荷低減について議論できたことは有意義だったと思います。



### (4) 環境負荷低減への取り組み-B【参加者7名】

座長：斎藤 和邦(三井化学株式会社)

副座長：奥野 隆史(花王株式会社)

環境負荷低減活動について事前アンケートを実施し、①GHG排出量削減、②省エネ、③水資源管理、④廃棄物管理の4つのテーマで情報交換を行いました。GHG排出量の削減や省エネ活動については大きな目標が求められる中、各社がどのような目標を立て、どのような体制で技術開発をしているか、投資判断などについて情報交換を行いました。水管理については、SBTWなどに適合するような目標づくりが課題であることを確認し、廃棄物管理については各社のリサイクルの課題について紹介しあい、活動事例としてはポリウレタンやプラスチックドラムのリサイクルについて海外工場の事例紹介を行いました。今後の活動のヒントとなるような、非常に有意義な情報交換ができました。



## 「なぜなに？かがく実験教室」の開催について

11月6日(土)、東京の科学技術館で「なぜなに？かがく実験教室」を開催しました。

「なぜなに？かがく実験教室」は、日化協を含む4つの学協会が運営する「夢・化学-21」事業において、小学1～4年生を対象に行っている体験型イベントです。参加する子どもたちが、実験を通じてかがく(化学/科学)の不思議を体験し、“なぜそうなるのか”を考えることで身の回りにある化学や化学製品に興味を持ち、理解を深めることを目的に開催しています。

講師には、東京都中学校理科教育研究会(都中理)協力のもと、中学校、高校、大学から先生方をお招きし、直接指導のもと、学校の授業では体験できない、かがくの実験や工作・観察等を行っています。

「なぜなに？かがく実験教室」は毎年6回、奇数月の土曜日午後で開催していますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、昨年11月以降は開催中止が続いていました。先般、日本全国で緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が全面解除されたことを受けて、定員数を通常の半分に抑えるなど、感染拡大防止対策を実施した上で、約1年ぶりに開催を実現することができました。

今回のテーマは「浮き沈みでものを区別しよう」。東京学芸大学 宮内卓也教授が講師を務める中、参加した生徒たちは初めて見聞きする実験内容に熱心に取り組みました。

次回は来年1月22日(土)開催予定です。

「なぜなに？かがく実験教室」の詳細についてはこちらをご覧ください。

<https://www.kagaku21.net/event/index.html>



## Index

from Members【第87回】	2
ライオン(株) 取締役 上席執行役員 小林 健二郎さん	
RCの現場を訪ねて DIC(株) 四日市工場 日本ペイント・インダストリアルコーティングス(株) 千葉工場	4
RC海外支援活動	6
日化協LRI賞受賞者を表彰	7
リスクコミュニケーション研修	8
化学の日 パネルディスカッション	9
2021年度 第1回 会員交流会	10
「なぜなに?かがく実験教室」の開催について	11
RC委員会だより	12

## R C 委 員 会 だ よ り

☆会員動向 (会員数：121社 2021年11月末現在)

入会

- ▶ 株式会社三菱ケミカルリサーチ(9月1日付)
- ▶ レック株式会社(10月1日付)

☆行事予定

4月 RC委員会                      5月27日 日化協総会

### 表紙写真の説明

#### 昭和電工川崎事業所扇町地区の工場夜景

川崎臨海部の運河沿いに位置する工場夜景の名所の一つ。使用済みプラスチックを分解し、水素を取り出すプラントです。この角度は観光船からは見るできません。

昭和電工株式会社・株式会社マーベリック提供(撮影：工場夜景写真家 青木秀道)

### 編集後記

●● 国際化学工業協会協議会(ICCA)のRCリーダーシップグループ(RCLG)が不定期に発行しているResponsible Care Status Report 2021が11月に発行されました。40頁弱のボリュームに、ポストSAICM 2020や各国のCOVID-19対応状況など、ホットな話題が満載です。下記のURLからPDF版がダウンロードできますので、是非そちらも御参照ください。

<https://icca-chem.org/wp-content/uploads/2021/12/RCLG-2021-Status-Report-FINAL.pdf>

RC NEWSのバックナンバーは、以下のアドレスにてご覧いただけます。

▶ <https://www.nikkakyo.org/organizations/jrcc/rc-news-page>

